

愛知県畜産総合センター種鶏場は再整備を行っています

愛知県畜産総合センター種鶏場 場長 中谷 洋



愛知県畜産総合センター種鶏場は、昭和13年の開設以来、鶏ひなの供給基地等として、本県養鶏振興に大きな役割を担ってきました。特に平成17年からは、鶏種を愛知の特産鶏である名古屋コーチンに特化し、普及拡大に努めてきました。

ご存じのとおり、名古屋コーチンは地鶏のトップブランドであり、諸先輩方や皆様方のご尽力により、今後も一層の消費拡大が見込まれます。そうした中であって、現在の種鶏場の鶏舎の多くは築50年を経過して老朽化が著しく、内部の改修ではその生産性を維持することが困難になってきました。さらに拡大となると、生産性はもとより高度な防疫への対応や都市化が著しい現在地では周辺環境への配慮などが行き届かない心配も考えられます。

そのような理由から種鶏場を移転再整備することにし、平成28年度に種鶏場移転再整備基本構想が策定され、安城市から小牧市に移転する計画が進められています。中央高速道路を小牧ジャンクションから北上し、小牧市の四季の森を越えた左側に、山上を平らにした造成地が見えます。ここが新しい種鶏場になります。一昨年の大規模な造成工事を経て、いよいよ今年度から鶏舎やふ卵施設などの建設工事が始まりますが、建設工事には2年間を要し、令和5年3月に工事が完了した後、令和5年度から1年ほどかけて移転を行う予定です。

鶏舎はセミウインドウレスタイプとなり、シャワー設備や消毒装置により現在よりも徹底した衛生対策を行う施設になります。鶏の管理を行う職員以外は衛生管理区域に立ち入れませんが、名古屋コーチンの増産に向けて関係者の皆さんに存在感のある種鶏場を目指していきたいと考えています。

種鶏場移転再整備の今後のスケジュール

	2021年 R3	2022年 R4	2023年 R5	2024年 R6
今後のスケジュール	施設建築工事		移転・旧場解体 移転中は新旧の種鶏場2カ所で同時に業務を実施	



種鶏場完成予想図

(一社)名古屋コーチン協会 発行 名古屋コーチンプレス
2021年6月号 掲載